

あ と が き

本報告は、東日本大震災発生後の約1年半の間に、当研究所が実施してきた大震災に関する調査、分析、研究、現場への技術支援、そして、震災から浮き彫りになった新たな課題に対する取り組みなどについて、出来るだけ時系列的にとりまとめたものです。時系列的に整理することにより、震災の現象面と実務面を分野横断的に包括的に俯瞰できることを目指したものです。とりわけ、調査・研究の実施に際しては国土交通本省、東北地方整備局、岩手県、宮城県、福島県を始め関係の多くの方々にお世話になりました。また、これらの実施には(独)土木研究所、(独)建築研究所、(独)港湾空港技術研究所をはじめとする関係研究機関にもお世話になりました。この紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

本報告の作成には、当研究所の14研究部・センター全てが関わり、それぞれが震災に対して取り組んだ事項をまとめています。内容面で多岐に亘るとともに、分野横断的な取り組みについても出来るだけ掲載した報告書となっています。これは震災の記録としてだけでなく、我々研究者が有すべき想像力の構築にも非常に重要な意味を持っているものと考えています。震災対応に直接関係された方々だけではなく、直接は関係されていない方々にとっても将来の災害への備えに対し非常に有益な内容になっています。出来るだけ多くの方が本報告を手にして頂ければ幸甚に存じます。

東日本大震災発生から約2年が過ぎました。復興には非常に大変な苦難と労力が必要とされています。復興への取り組みにあたっても当研究所として積極的に現場への技術支援等をしているところですが、引き続き必要な技術支援を実施していく所存です。

さらに、東海・東南海・南海地震や首都直下地震等への備えも緊急を要する課題です。これに対しても今回の地震・津波災害から様々な教訓を学び、必要な調査・研究を迅速に実施し、現場への適切な支援等が行えるようにしていきたいと考えています。